

登録番号 第 24149 号

シアゲ MF[®]1 キロ粒剤

- 特長；
- 移植後 20 日から使用できる水稲用中・後期除草剤です。
 - 初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
 - 有効成分メタミホップ配合で、ノビエに対して優れた効果を発揮します。
 - クログワイ、シズイ、オモダカ等の多年生難防除雑草にも高い効果を示します。

有効成分	ピリミスルファン・・・0.60% メタミホップ・・・0.90% MCPB・・・2.40%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物 [※]	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2022年6月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生 及び 多年生雑草	移植後 20 日～ ルビエ 4.5 葉期 但し、収穫 60 日前まで	1kg/10a	2 回以内	湛水散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲 3.5 葉期～ ルビエ 4.5 葉期 但し、収穫 60 日前まで			湛水散布又は無人航空機による散布

ピリミスルファンを含む 農薬の総使用回数	メタミホップを含む 農薬の総使用回数	MCPB を含む 農薬の総使用回数
2 回以内	3 回以内	2 回以内

使用上の注意事項

- (1) 本剤はノビエの 4.5 葉期まで有効なので、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は、生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは花茎 20 cm まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは 4 葉期まで、オモダカは矢じり葉 4 葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈 30 cm まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、キシウスズメノヒエは再生茎 5 葉期まで、エゾノサヤヌカグサは 4 葉期まで、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈 20 cm までが本剤の散布適期である。
- (2) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
- (3) キシウスズメノヒエ防除は展開葉が水面に接する条件で使用すること。
- (4) 田植前後に使用する土壌処理除草剤との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失ないように適期に散布すること。

- (5) 本剤はホルモン作用を持つ除草剤で処理後低温が続く場合には、稲苗の生育抑制などをおこすおそれがあるので、処理後数日間の平均気温が15～16℃以下になると予想される場合には使用をさけること。
- (6) 直播水稻に使用する場合は、葉害をさけるため稲の3.5葉期以降に使用すること。
- (7) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - 4) 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
 - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (8) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行うこと。
- (9) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布し、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (10) 以下の水田では葉害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - 2) 軟弱徒長苗を移植した水田
 - 3) 極端な浅植や深植をした水田
- (11) 強風時の散布はさけること。
- (12) いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (13) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他の物とは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。